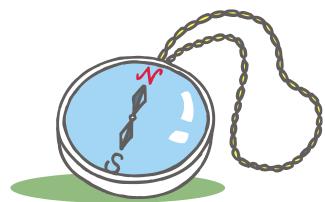


羅針盤



第 8 号

令和4年(2022年)5月30日(月)

◆ 「あきらめ」などという言葉は私の辞書にはない

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、オミクロン株といった感染力の強い変異株まで現れて、ようやくピークが過ぎたと言われている「第6波」も、感染者数が著しく減少してきたとはまだまだ言えない状況が続いている。大阪府下においては医療の緊急事態宣言が出されているときもありましたが、日本に限ることなく全国各地で医療に従事される関係者の皆さん、悪戦苦闘の日々を過ごされていることに心が痛む思いでいっぱいです。それでも、決して「あきらめることなく」医療や看護に取り組まれている姿は、「あきらめ」といった言葉など欠片も感じることはありません。「あきらめ」などという言葉は私の辞書にはない、この言葉はクリミア戦争での負傷兵たちへの献身的な看護活動で有名なイギリスの看護師フローレンス・ナイチンゲールが残した言葉です。看護教育学者としても有名なナイチンゲールは、1820年にトスカーナ大公国(現在のイタリア)の首都であるフィレンツェの生まれで、幼少の頃から慈善訪問の際に接する機会のあった、貧しく暮らしていた農民たちの悲惨な生活を目の当たりにすることで、人々に奉仕する仕事に是非とも就きたいと考えるようになったそうです。1854年にクリミア戦争が勃発し、ナイチンゲールは自らが看護婦として従軍する決意を固めて、シスター24名と職業看護婦14名の合計36名の女性たちを率いて戦地に向かったそうです。彼女の献身的な看護活動はイギリス女王の耳にまで届くほどで、看護師が「白衣の天使」と呼ばれるのはナイチンゲールに由来しているそうです。クリミア戦争終結後は、看護学校の設立に尽力した彼女の活動は、現在の看護教育や看護活動に大きな影響を与えていたと考えて間違いないと思います。何事も「あきらめた」ときに全ての可能性が潰(つい)えてしまうと考えたナイチンゲールは、「あきらめない」限り可能性があることを信じて活動を続け、自然界の大いなる無限を感じ、その恩恵を享受していくためには、目ざすべき夢を持ち続けることが何よりも大事なことであると言います。あきらめざるを得ない状況に自らを追い込んでしまうといったことが現実にはたくさんあるかもしれないけれど、目の前にある手の届く範囲での可能性を最大限に引き出し、高めていくためにも、本来目ざすべき方向を見据えて行動することがとても重要なことです。どんな局面においても、「あきらめることなく」チャレンジし続けた彼女の姿は、私たちに大きな勇気と希望を与えてくれています。



チャレンジする気持ちが、あきらめない自分を成長させ、自分の持てる能力に磨きをかけることへつながり、潜在的な能力までも引き出すようなきっかけとなることがたくさんあります。是非とも、生徒の皆さんにも「あきらめる」といった言葉を自分の持つ辞書から削ることで、大きく成長する自分と出会えることに繋げていってほしいと思います。コロナ禍で変化を余儀なくされた日常が続いているが、収束する日が必ずやいつかは訪れる信じて疑うことなく、何度も失敗を繰り返したとしても「あきらめない」気持ちを大切に持ち続け、有意義な学校生活を過ごし、誰もが成長した自分をたくさん見つけ出してくれることを心から願っています。

